

津松阪港の防災対策の現状と課題

【目次】

- 1. 港湾の耐震性・耐津波性能の向上
 - ・耐震強化岸壁について P. 1
 - ・防潮ラインの現況について P. 3
 - ・防潮ラインの整備状況について P. 4
 - ・堤防の計画天端高について P. 5
- 2. 避難対策の強化
 - ・津松阪港における津波浸水予測図 P. 6
 - ・三重県の津波ハザードマップ公表状況 P.11
 - ・GPS波浪計による沖合波浪観測体制の構築 P.12

耐震強化岸壁について

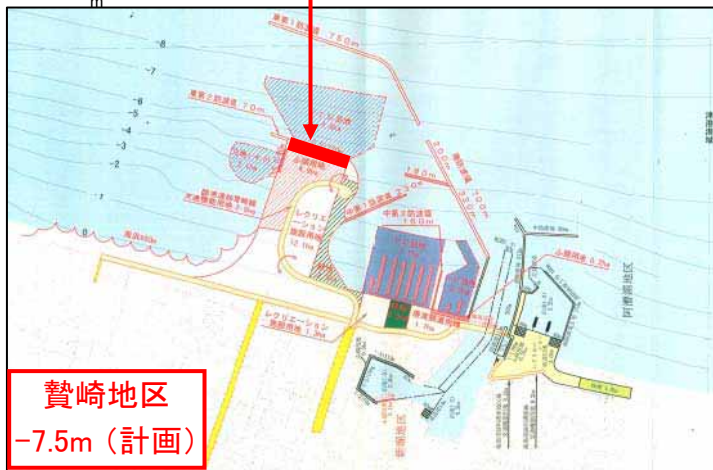
1. 港湾の耐震性・耐津波性能の向上

- 大規模地震発生時の緊急物資輸送や海上コンテナ輸送のための耐震強化岸壁は、現在3バースが必要。
- 現在の整備率は67%（整備済み2バース）であり、被災時に津松阪港が受け持つべき物資輸送を可能にすべく、整備の推進が必要。

津松阪港の耐震強化岸壁整備率(%) = $2/3 = 67\%$
完了 計画

※耐震強化岸壁 : 数百年に1度発生する確率の地震(L2)後に利用可能
通常の岸壁 : 75年程度に1度発生する確率の地震(L1)後に利用可能

●耐震強化岸壁配置図



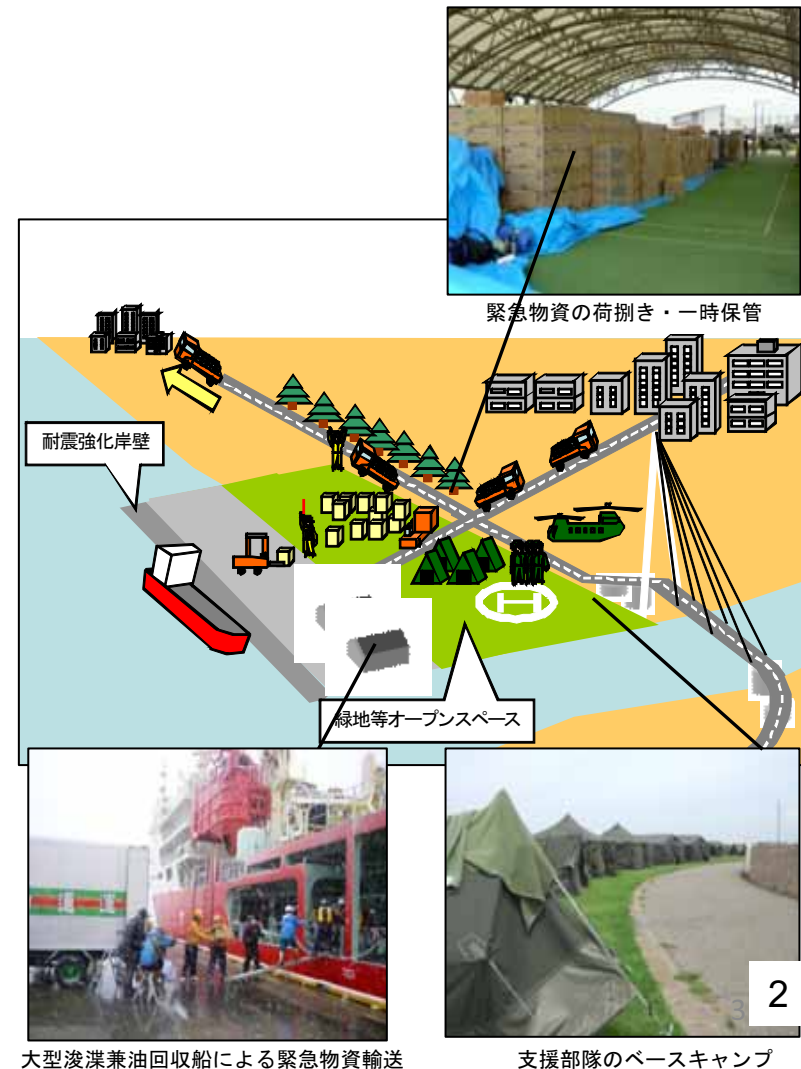
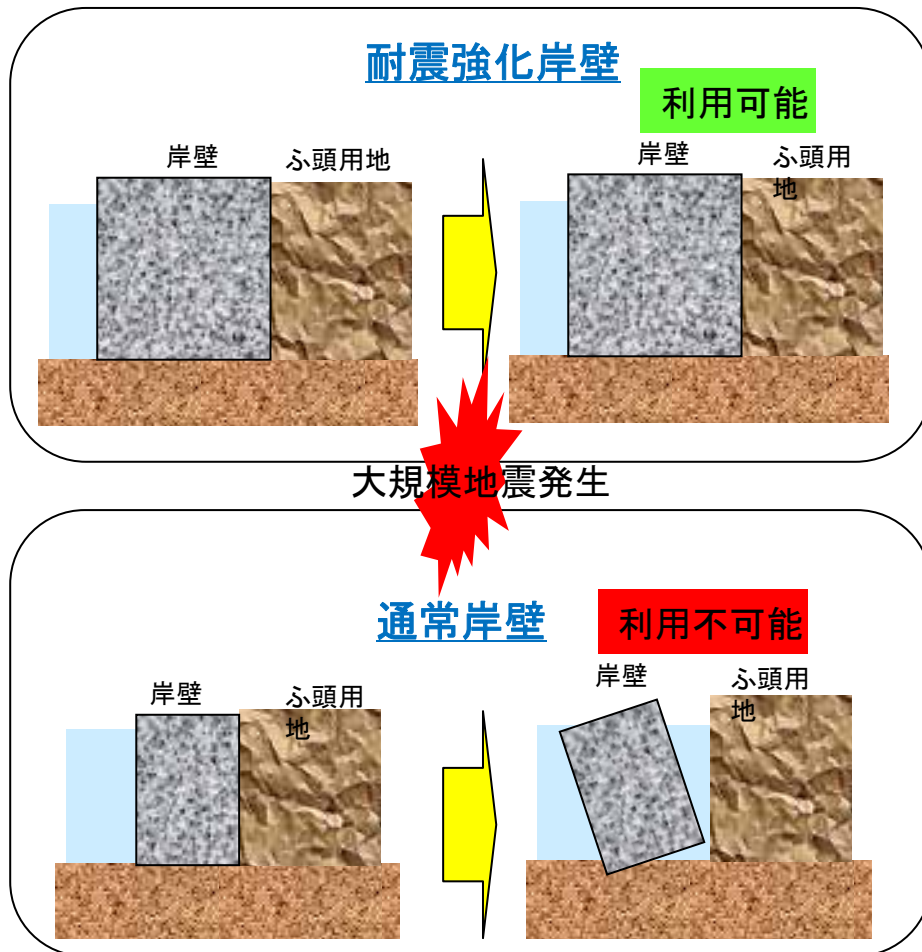
●耐震強化岸壁一覧

港湾名	地区名	水深 (m)	延長 (m)	バース数	整備状況
津松阪港	贊崎地区	7.5	220	1	計画
	大口地区	7.5	130	1	整備済み
	大口地区	5.5	100	1	整備済み

(参考) 耐震強化岸壁について

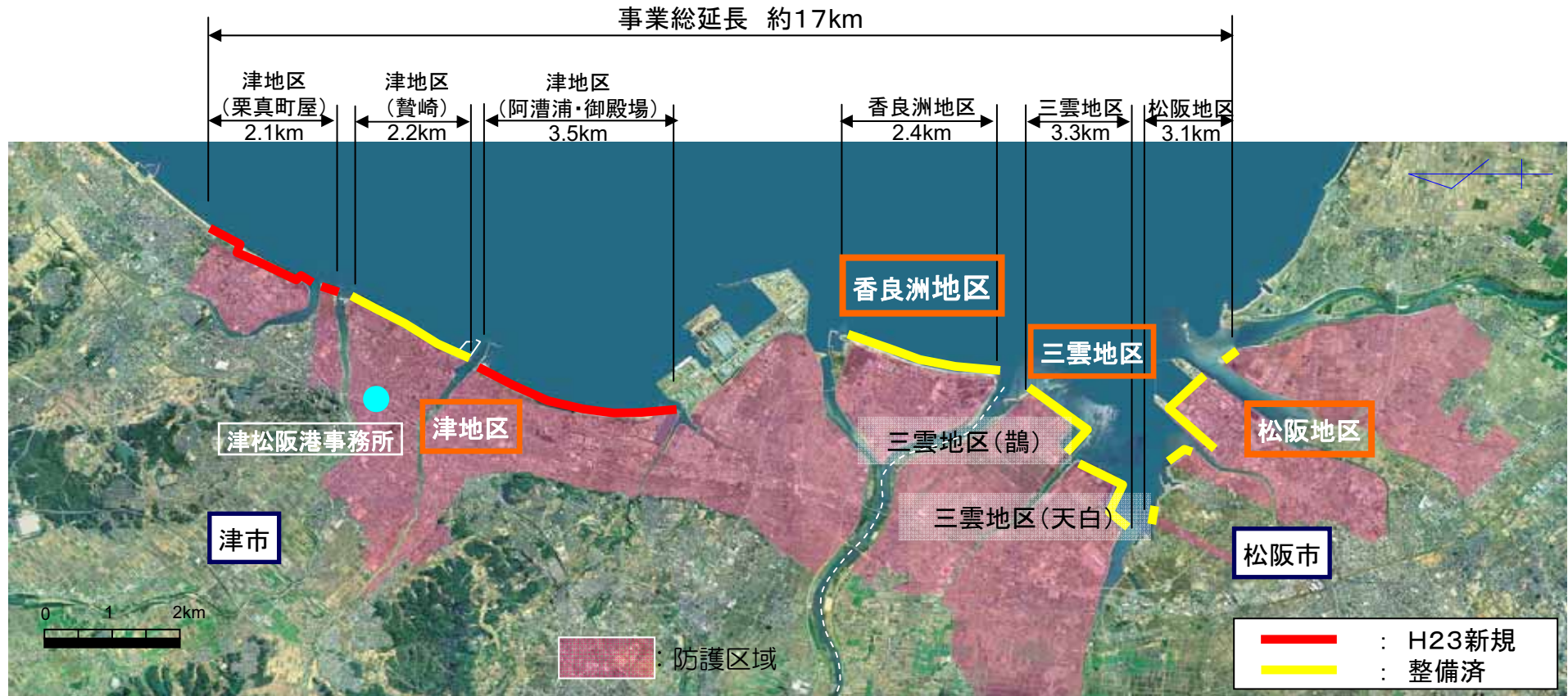
1. 港湾の耐震性・耐津波性能の向上

- 大規模地震が発災した際に、発災直後から緊急物資等の輸送を確保するため、一般の岸壁よりも耐震性を強化した係留施設。
- 耐震強化岸壁は、背後の緑地等オープンスペースと一体となって、緊急物資の荷捌き・一時保管や、支援部隊のベースキャンプ等のための防災拠点となる。



防潮ラインの整備状況について

1. 港湾の耐震性・耐津波性能の向上

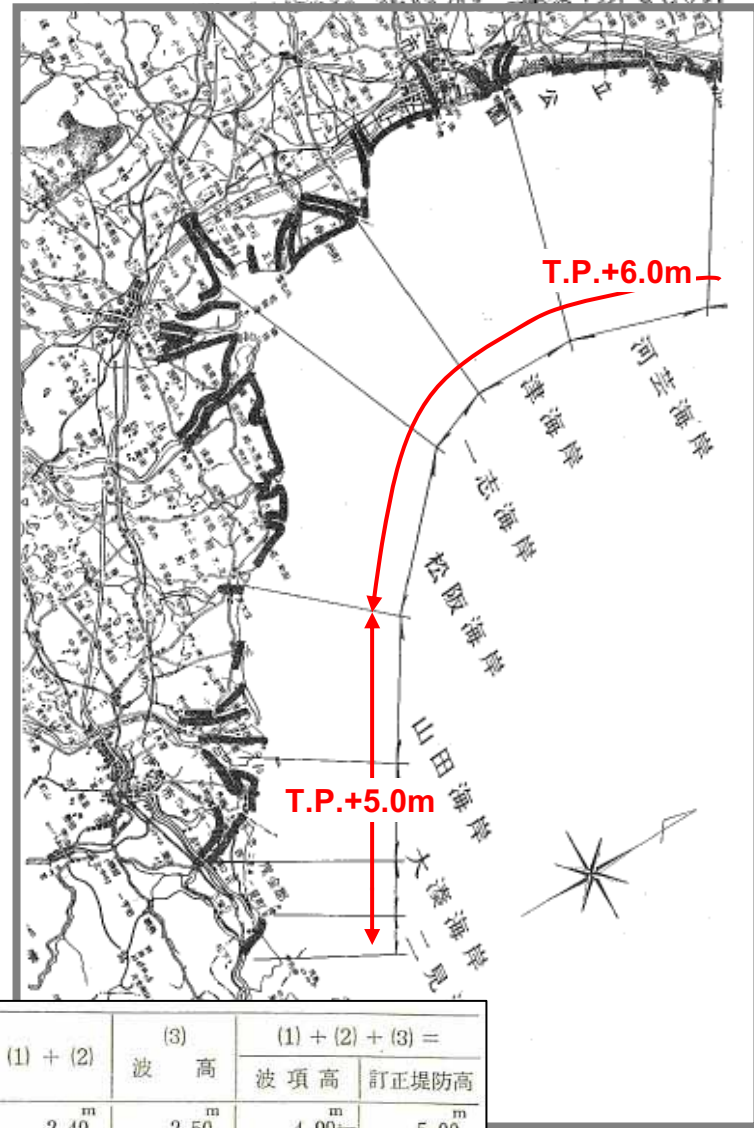
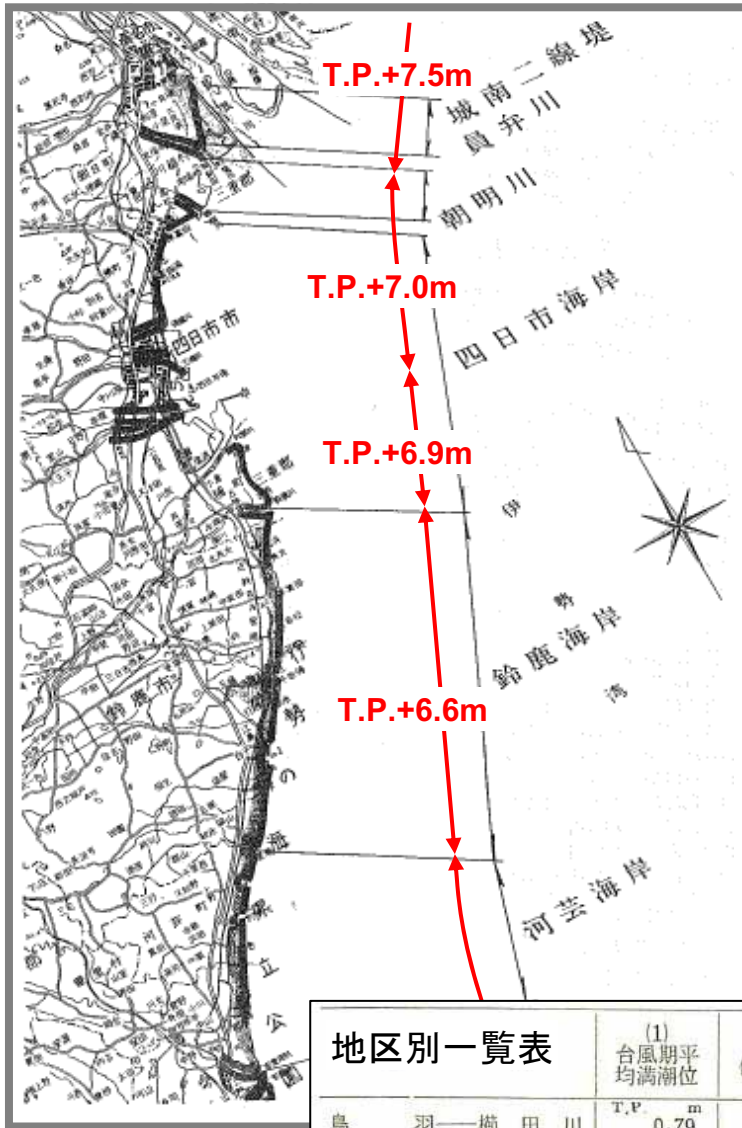


<防護区域の概要>

地区(工区)名		市町村名	延長[m]	防護面積[ha]	防護人口[人]	整備期間	備考
津地区	栗真町屋工区	津市	2,062	236	10,570	H23~H35	平成23年度新規着工
	贄崎工区	津市	2,194	446	23,180	H14~H23	平成23年度完了
	阿漕浦・御殿場工区	津市	3,485	597	24,520	H23~H35	平成23年度新規着工
香良洲地区		津市	2,350	291	5,440	H4~H21	整備済(H22.4引継ぎ)
三雲地区		松阪市	3,325	1,251	8,760	H4~H23	平成23年度完了
松阪地区		松阪市	3,118	1,206	10,070	H6~H20	整備済(H21.12引継ぎ)
計			16,534	4,027	82,540		

堤防の計画天端高について (S34 伊勢湾高潮対策協議会)

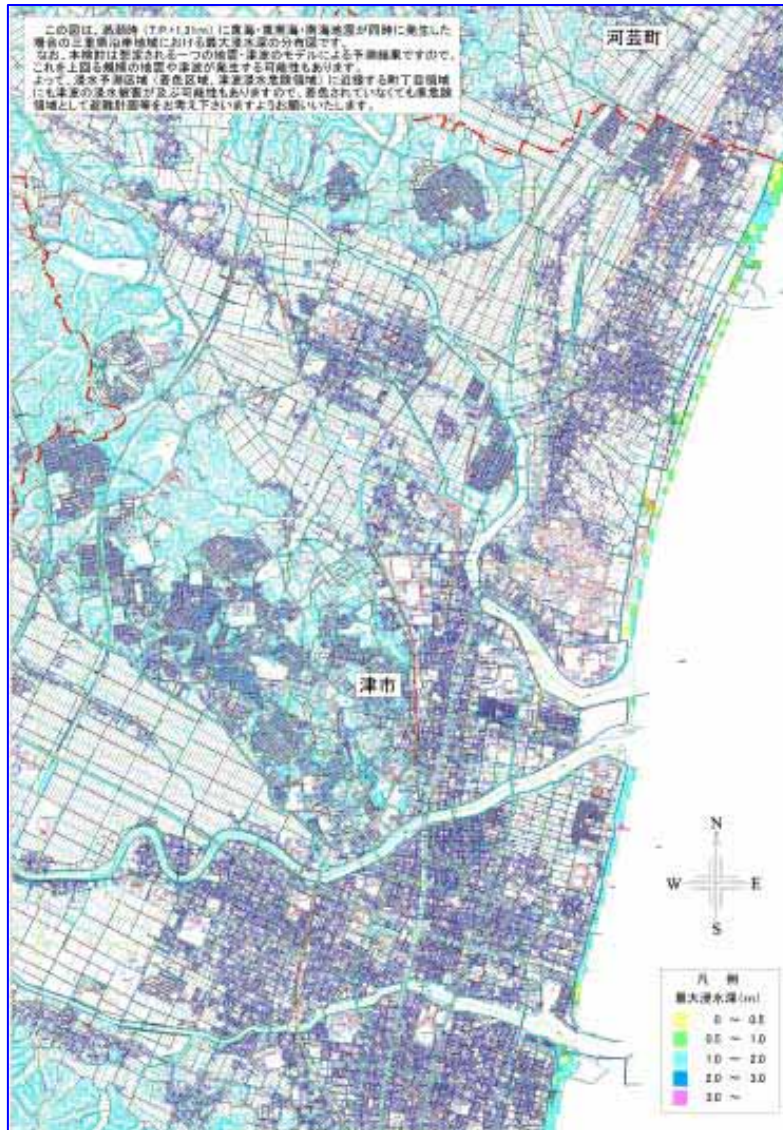
1. 港湾の耐震性・耐津波性能の向上



地区別一覽表	(1)	(2)	(1) + (2)	(3)	(1) + (2) + (3) =	
	台風期平均満潮位	偏差			波高	波項高
鳥羽—榑田川	T.P. 0.79 ^m	1.70 ^m	2.49 ^m	2.50 ^m	4.99 ^m	5.00 ^m
榑田川—白子(津)	1.04	2.14	3.08	2.80	5.98	6.00
白子—鈴鹿川	1.04	2.71	3.75	2.80	6.55	6.60
鈴鹿川—三滝川(四日市)	1.05	3.00	4.05	2.80	6.85	6.90
三滝川—朝明川	1.05	3.00	4.05	2.90	6.95	7.00
朝明川—名和(名古屋)	0.97	3.55	4.52	2.90	7.42	7.50

津松阪港における津波浸水予測図(1)

2. 避難対策の強化



①河川・海岸の防潮施設が機能している場合

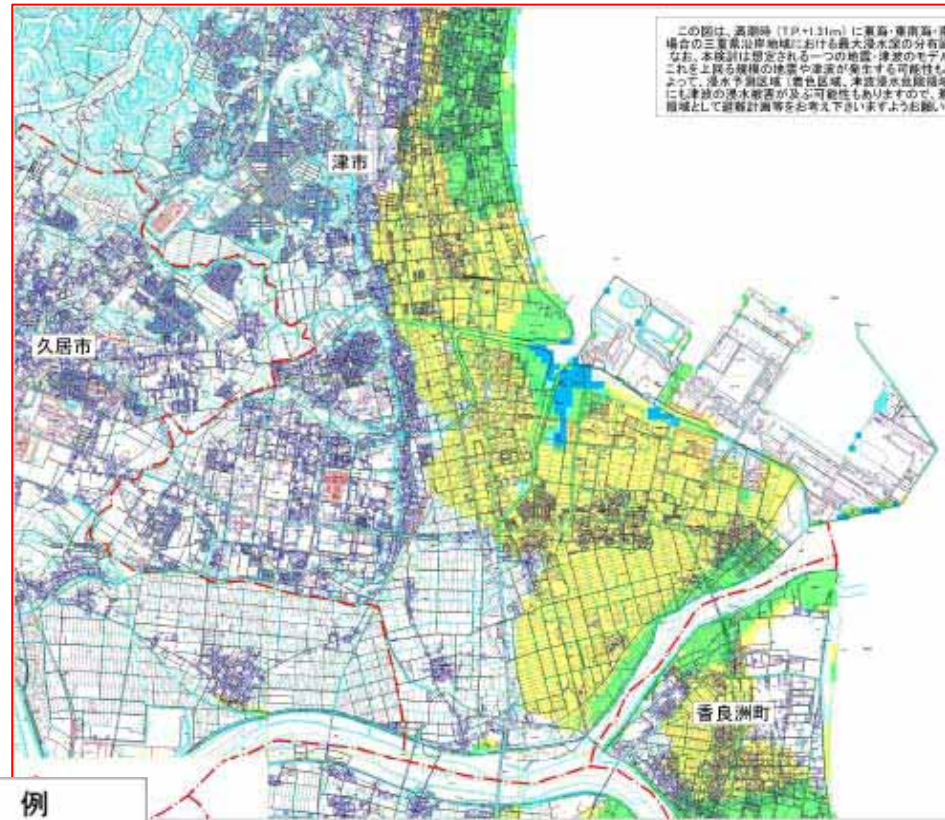
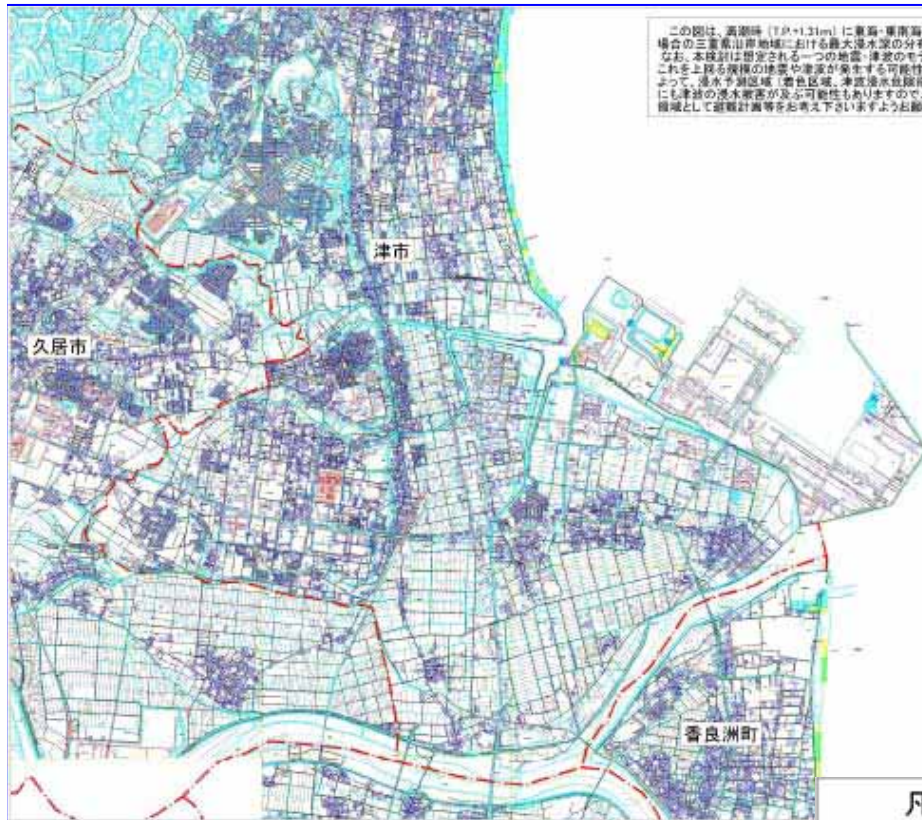


②河川・海岸の防潮施設が機能しない場合

※三重県HPより
(満潮時に東海地震+東南海地震+南海地震が同時に発生した場合)

津松阪港における津波浸水予測図(2)

2. 避難対策の強化



凡 例

最大浸水深(m)

0 ~ 0.5
0.5 ~ 1.0
1.0 ~ 2.0
2.0 ~ 3.0
3.0 ~

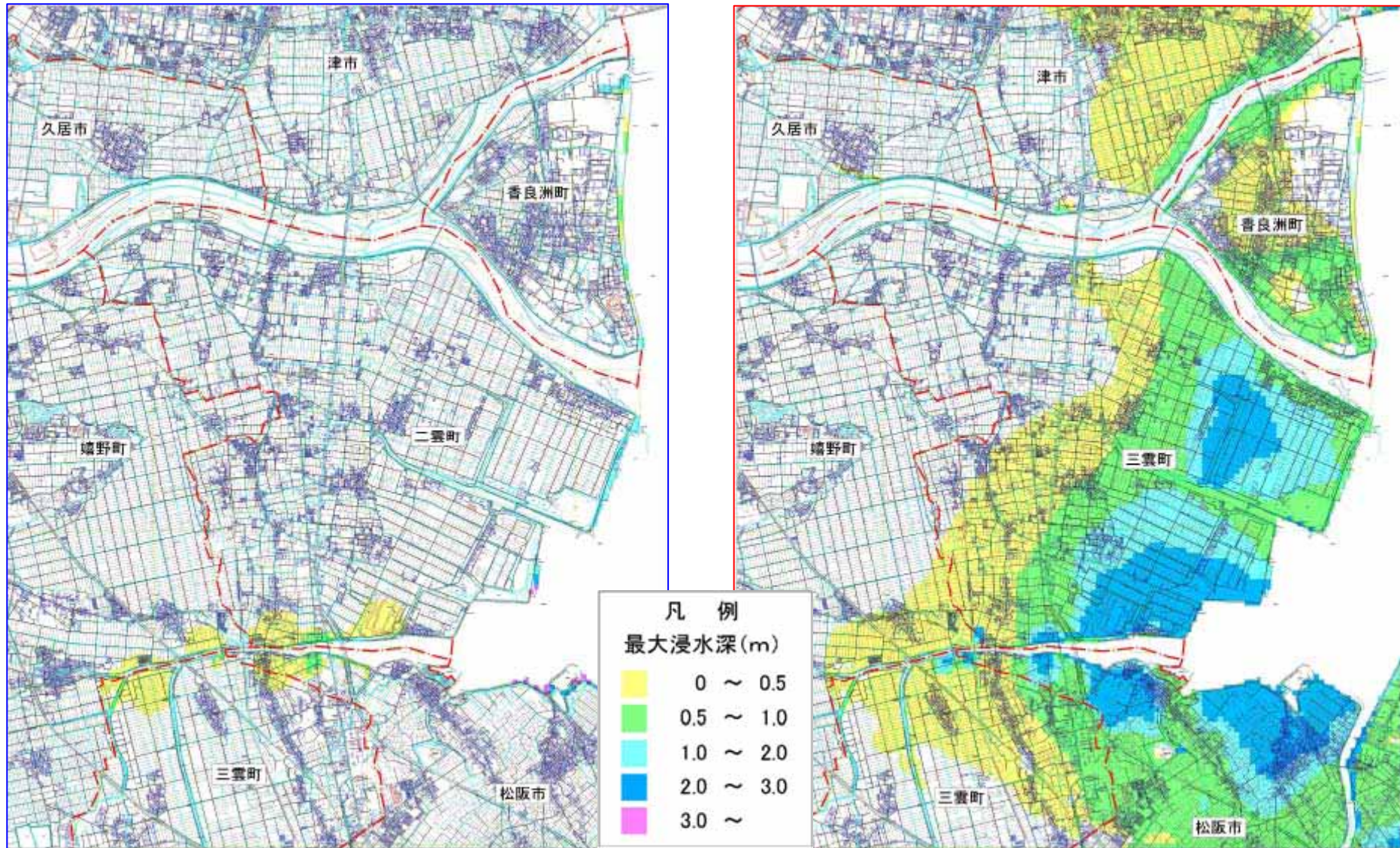
①河川・海岸の防潮施設が機能している場合

②河川・海岸の防潮施設が機能しない場合

※三重県HPより
 (満潮時に東海地震+東南海地震+南海地震が同時に発生した場合)

津松阪港における津波浸水予測図(3)

2. 避難対策の強化



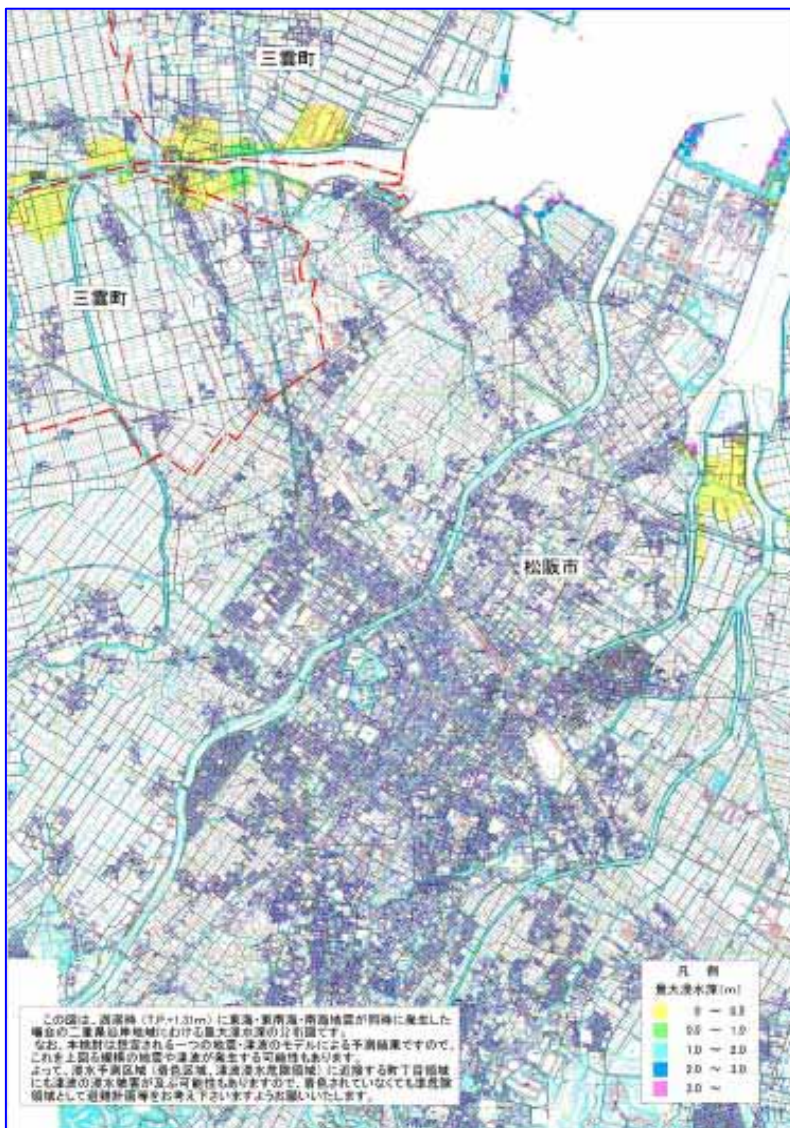
①河川・海岸の防潮施設が機能している場合

②河川・海岸の防潮施設が機能しない場合

※三重県HPより
(満潮時に東海地震+東南海地震+南海地震が同時に発生した場合)

津松阪港における津波浸水予測図(4)

2. 避難対策の強化



①河川・海岸の防潮施設が機能している場合

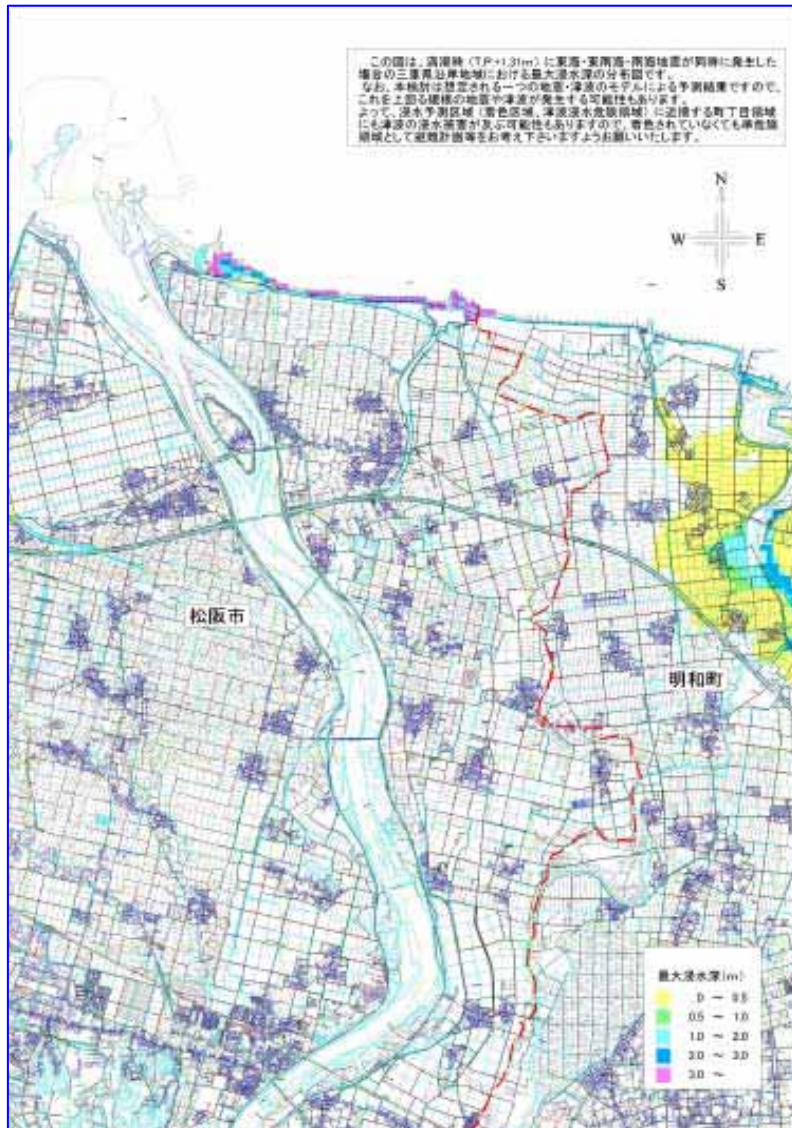


②河川・海岸の防潮施設が機能しない場合

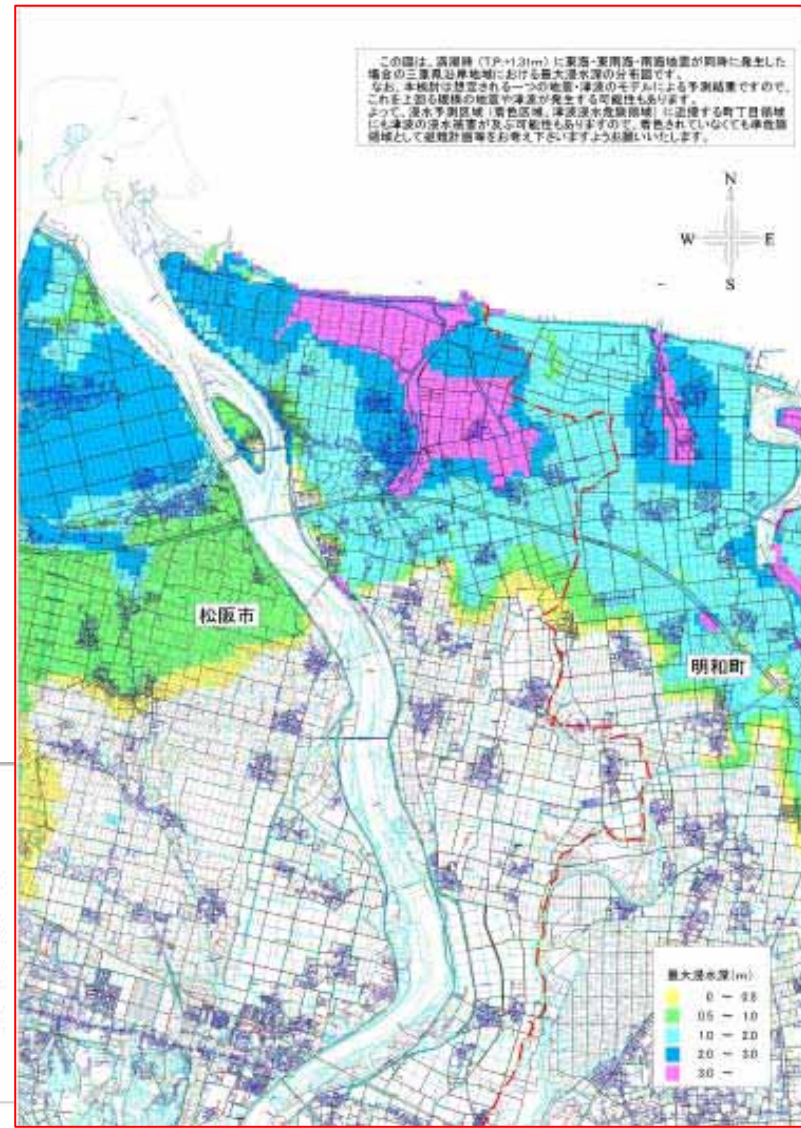
※三重県HPより
 (満潮時に東海地震+東南海地震+南海地震が同時に発生した場合)

津松阪港における津波浸水予測図(5)

2. 避難対策の強化



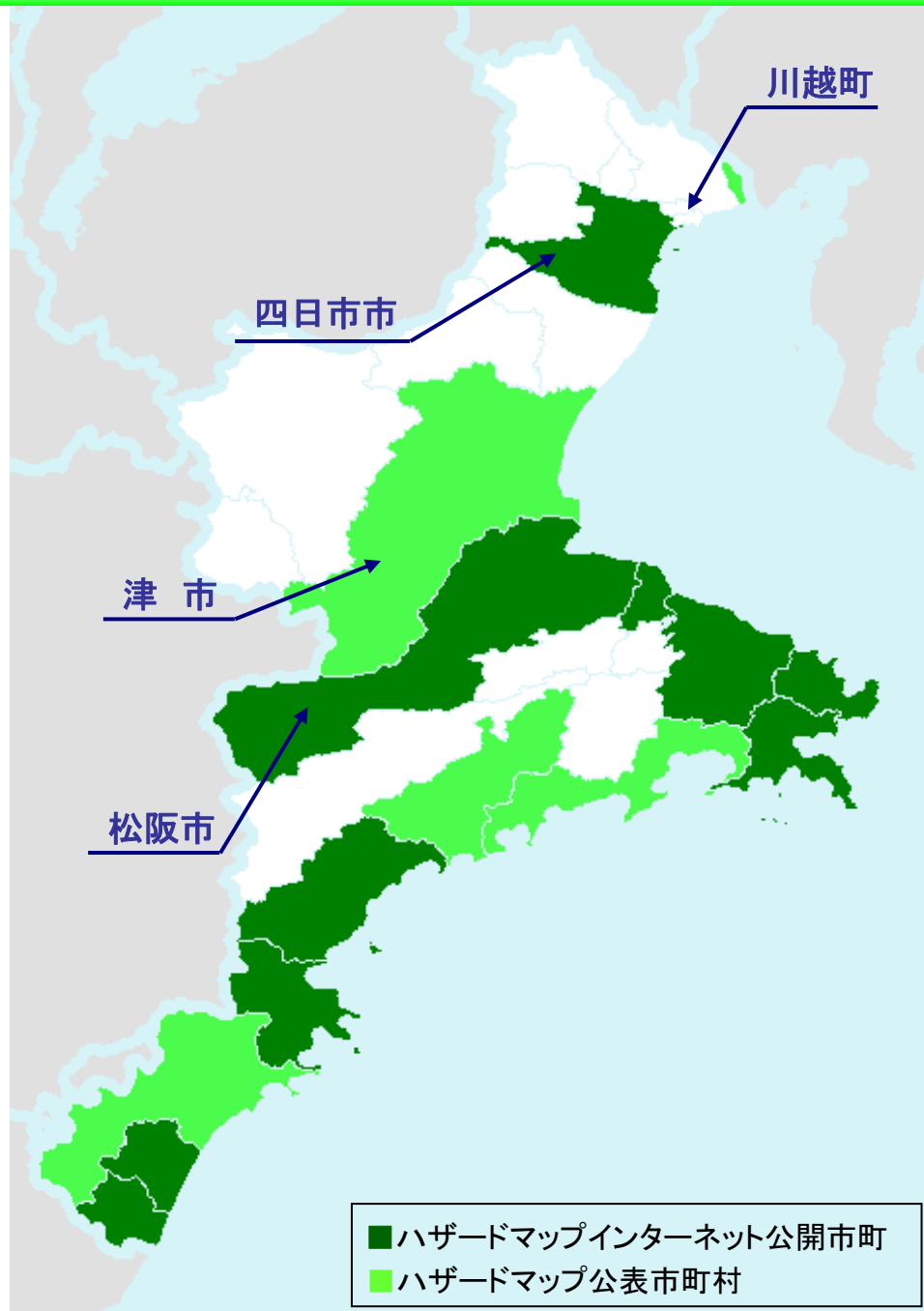
①河川・海岸の防潮施設が機能している場合



②河川・海岸の防潮施設が機能しない場合

※三重県HPより
(満潮時に東海地震+東南海地震+南海地震が同時に発生した場合)

三重県の津波ハザードマップ公表状況



国土交通省 ハザードマップポータルサイト
※H23.7.31時点
<http://disapotal.gsi.go.jp/viewer/index.html?code=4>

GPS波浪計による沖合波浪観測体制の構築

2. 避難対策の強化

GPS波浪計とは

- ・GPS波浪計とは、港湾整備に必要な沖合の波浪を精度良く観測する機器です。
(誤差数センチ)
- ・GPS衛星を用いて、沖に浮かべたブイ(GPS波浪計)の上下変動を計測し、波浪や潮位を観測しています。

GPS波浪計の役割

GPS波浪計は沖合約20kmに設置しています。
 沖合に設置することにより、地震発生時には津波をいち早く観測することが可能であることから、気象庁にデータを提供するなど関係機関と連携し、津波への迅速な対応にも活用しています。

